

様式7

河川基金助成事業

報告書

川ってみんな違うんだね。それぞれの川が持つ特徴を学びながら川の不思議さや神秘さに心を動かす



助成番号：2021 - 7111 - 011

学校法人ろりぽっぷ学園 ろりぽっぷ泉中央南園

令和3年度

助成番号	助成事業名		学校名			
2021 - 7111 - 011	川ってみんな違うんだね。それぞれの川が持つ特徴を学びながら川の不思議さや神秘さに心を動かす		ろりぼっぶ泉中央南園			
校長名	佐藤 眞弓		担当教諭名	白旗 璃央		
過去の助成実績	なし (あり) [助成番号：2020-7111-003 助成事業名：川で学ぶ体験活動を通して感動する心を豊かに育みながら、川を持つ力や危険性を知り、安全への心を高める事業					
キーワード						
対象児童生徒	高校生 (年 名) 中学生 (年 名) 小学生 (年 名) 幼児 (年長児 11 名)					
対象河川名	七北田川 根白石川・広瀬川		活動場所の指定状況	(なし) 子どもの水辺 水辺の楽校		
年間学習計画 (シラバス) における本助成事業の位置づけ						
テーマ	川ってみんな違うんだね。それぞれの川が持つ特徴を学びながら川の不思議さや神秘さに心を動かす					
ねらい	身近な川での活動を通して、心を揺さぶりながら豊かな感性を育む。					
評価の観点	一人一人の子どもが生き生きと楽しく活動に参加出来たか。川での体験を通して興味・関心を持つことが出来ているか。幼児期の終わりまでに育って欲しい 10 の姿から捉える。					
活動時期	4 月～翌年 3 月					
活動形態	総合的な学習の時間	各教科学習 ()	各教科学習 ()	学校行事	その他 ()	合計
上記の活動時間数	10 時間	時間	時間	時間	時間	時間
支援者等 (複数記入可)						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関 (博物館、資料館) 等		関係団体 (漁協、農協) 等		企業	その他
支援概要						
活動成果	発表形態			成果作品		
	(学級単位) 学年単位	学校全体				
対外発表 ()						
安全対策に関する課題						
・子どもたちが川遊びを行う前にインストラクターと RAC リーダーを受けた職員が職員全体に河川研修を行い、川の安全な遊び方を学習する機会を設けた。また河川活動での事故や予測される子どもたちの行動等、起こりうる危険を把握し、さまざまなヒヤリハットを元に話し合い、子ども自身が川の危険性を感じ安全な方法を知ることが課題である。						
活動の成果と今後の課題・展開						
・子どもたちは身近にある「七北川」「広瀬川」「根白石川」での遊びを十分に楽しみ、川に親しみを持って活動に参加する姿が見られた。川や自然に触れ合う中で川に生息する生き物に出会い、発見した喜びを味わい、さらなる川への興味へと繋がっていった。河川活動に取り組む姿を「幼児期の終わりまでに育って欲しい 10 の姿」と照らし合わせながら、子どもたちの学びや育まれた力を読み取ることができ子ども主体の重要性を感じた。子どもたちが試行錯誤しながら、じっくりと考えることで考える力が育っている。人と直接関わって力を合わせることや良い関係をつくるためにルールを守るなど、対人関係の基本も育まれた。子どもが主体的に「やりたい」と思う気持ちが、さまざまな力を身に付ける土台になったと思われる。今後の課題は、河川活動を通して育まれた力や能力を小学校教育にも繋げていけるよう、幼保小の連携が重要な課題だと考える。						
活動内容と実施時期 (主な活動を 2 つのみ記入)						
	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期	
データベースに登録する活動分野	学校部門	教育活動		系		月
				系		月

様式14

〔学校部門〕 共通

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2021-7111-011	川ってみんな違うんだね。それぞれの川が持つ特徴を学びながら川の不思議さや神秘さに心を動かす	学校法人ろりぽっぷ学園 ろりぽっぷ泉中央南園

はじめに

ろりぽっぷ泉中央南園は、緑が豊かな“杜の都仙台”の北部に位置し、保育園園舎の目の前を七北川が流れている場所にある。平成27年4月に開園した本園は、子どもたちが生活や遊びの中で様々なものに興味や関心を持ち、多様な体験を積み重ねていく中で自ら考えて行動し生きる力を培って欲しいとの願いを持っている。

年長組の子どもたちは、みんなで話し合いをする時間をたくさんつくっている。

子どもたち自ら話したいことを提案し、川遊びをするために何を準備したら良いのか、何をするために行くのかなど自分の意見を言い、友だちの意見も聞くなど「言葉による伝え合い」を大切にしている。

子どもが主体的に河川での活動に取り組み、さまざまな体験を通して心を揺さぶり、夢中になって遊ぶことが更に川への興味・関心が育つと考える。

魚ひとつから、調べてみたり、書いてみたりしながら子どもたちは興味を広げていく。

保育者が「これで遊びなさい」と決めることではなく、子ども自身が「やりたい」と思って取り組むことや自分で考えたり、決めたりしたことがしっかりと身に付くのである。

決して好き勝手にやって良いことではなく、みんなで何かをするときやうまく出来ないことがあったときに、他児と相談することで対話が生まれ、更に子どもたちの興味が広がったり、大事なことに気付いたり、深い学びになると思われる。

今回の河川活動は「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」から子どもたちの育ちが見える体験活動となった。



写真1



写真2



写真3

フィールド：園舎前にある川への道のり

日付：令和3年4月

成果：

第1の障壁 急な斜面(写真1)

園舎の前に広がる七北田川。近隣の七北田公園に行く際に通る橋の上から七北田川を眺め「ワニがいるかも」「サメもいるかな」と身近な川への興味を示す子どもたちの姿があった。斜面や草木が生い茂る場所などを通り抜け岸につく。ためらうことなく勢よく降りる姿や、急な斜面に戸惑い足がすくむ姿があった。様々な思いと葛藤しながらも、傍に友だちがいる安心感が挑戦する気持ちを後押しした。

第2の障壁 野原(写真2)

斜面を降りた先に広がった野原には「ごみ」が目立つ。草花や昆虫の生息地である場所を守るため、ゴミ拾いが始まった。

野菜を育てたり、身近な生き物を飼育したりした経験から生まれた命を大切にしようとする気持ちがここでも見られた。

第3の障壁 うっそうとした場所(写真3)

野原を進んだ先には木々に囲まれた薄暗い場所。怖さや不思議さを感じながらも友だちと一緒にという強みを武器に進んでいく。

この場所を「秘密基地」と名付けた子どもたちの好転。自分たちだけの特別な場所となった環境に心を踊らされ川への好奇心や期待感が膨らむと共に、大切な場所を守りたいという思いも芽生えていた。

(10の姿：健康な心と体・自立心・協同性
自然との関わり・生命維持)



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8

フィールド：七北田川の生き物との出会い
日付：令和3年4月
成果：
3つの障壁にたどり着いた先に見えた光景に川の素晴らしさを感じた子どもたち。橋の上からは分からなかった川に生き物があることや、川の流れを目や手で味わったことで川への興味が深まっていた。(写真4～写真8)
(10の姿：思考力の芽生え・自然との関わり・生命尊重)



写真9



写真10

フィールド：七北田川河川敷

日付：令和3年6月

成果：

初めての川遊び体験に、キラキラと輝く笑顔の子、ドキドキで緊張の表情の子の姿が見られていた。そんな中、朝の登園時から「今日は川には入らない」と話すS君。しかし、川の傍まで行き、友だちや保育者が川の間を歩くと「やっぱり入る」と心の中の恐怖心と戦い乗り越えようとする姿が見られた。それから、川の中を歩く練習をした後、水中望遠鏡や網を使い川にいる生き物を捕まえ、観察することで興味が広がっていった。(写真9) また、「しゃがんだらどうなるの?」「ライフジャケット着ているから浮かぶよ」「浮かぶのやってみよう」と新たな活動に向け期待を高めた子どもたち。そこで、仰向けになり身体力を抜いて浮かぶ練習をすることに。しかし練習をするかしないかは自分で決めてよいことを伝えると、各自が自分の心と相談して決断する姿があった。(写真10) 自分でやると決めた子の中には、やりたいけれど恐怖心からやりたくない気持ちと葛藤する姿もあった。すると、近くにいた友だちから「がんばってー」と励ましの言葉を受け挑戦。出来た喜びから笑顔を見せる姿から達成感や満足感を感じている。(写真11) 川からあがった子どもたちは見つけた生き物を「くるみ組にも見せてあげたい」と話す姿や、魚や鳥の名前を調べて図鑑にしたいと話すがあった。そこで、子どもたちが実際に見つけた生き物を写真に撮り、子どもたちと七北田川図鑑を作成。川の生き物が載っている図鑑を見ながら名前を記入し、更に生き物への親しみが深まっている。(写真12)

(10の姿：健康な心と体・自立心・協同性

社会生活との関わり・思考力の芽生え
言葉による伝え合い)

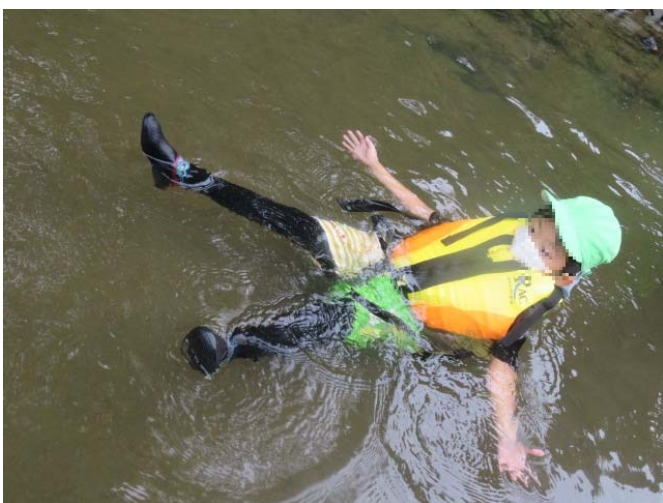


写真11



写真12



写真 13



写真 14

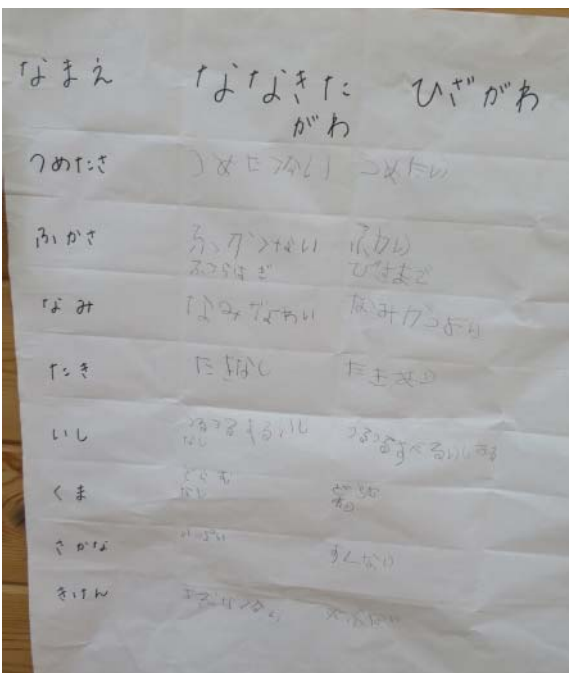


写真 15

フィールド：泉ヶ岳ひざ川

日 付：令和3年8月

成果：

前回の川遊びとは違い山道を歩いて川に向かう為、散策を楽しむ子どもの姿が見られた。山道では大きなカエルを発見。「何ていう種類だろう」「帰ったら調べたいから写真撮って」と話す子の姿が見られた。(写真 13) 様々な自然物の探索を楽しみながら川へ到着。すると赤い箱を発見した K ちゃん。「これは何だろう」「七北田川にはなかったよね」と熊避けに興味を示し鳴らす姿や、前回との違いに気付く姿があった。(写真 14) そして早速、川へ入水。実際に入ってみると「冷たい」「石がたくさんある」と気づいたことを言葉にする子どもたち。前の人に続いてどんどん歩いていく中で、石の上を歩くと危険なことやゆっくり歩く必要性に実体験を通して体で感じていく子どもたち。川からあがり、感じた思いを聞く中で、七北田川との違いに気付く子どもの姿があった為、表にして一緒にまとめていった。(写真 15) 水の温度や、水が流れる速さなど様々な面に着目し、川の違いに興味関心を深めている。また、川の中にある生き物や傍にある自然物にも目を向け、図鑑等で名前を調べる姿も見られていった。(写真 16)

(10の姿：健康な心と体・自立心・協同性

社会生活との関わり・思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重・言葉による伝え合い

豊かな感性と表現)

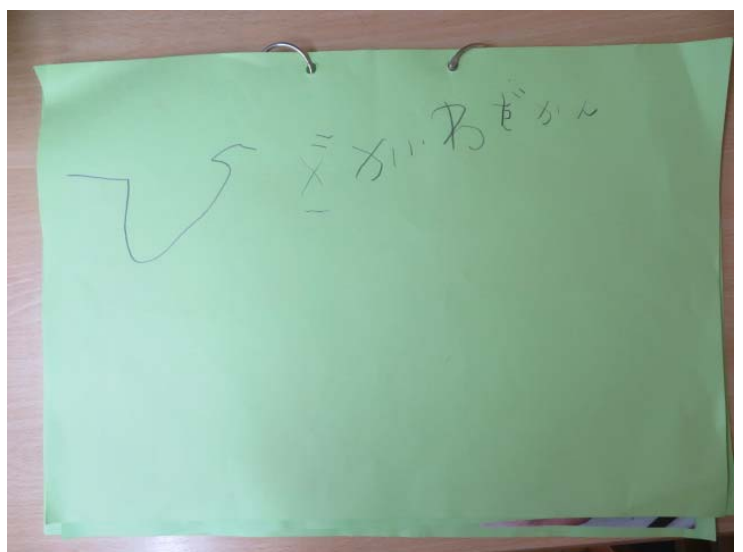


写真 16



写真17



写真18



写真19



写真20



写真21

フィールド：蒲生干潟
日付：令和3年10月
成果：

蒲生干潟に着くと今までとは異なる広い川に驚く子どもたちの姿が見られた。砂浜を歩くと様々な貝殻を見つけ手に取り「綺麗だね」「かわいいね」と興味を持ち（写真17）貝殻があることでS君は「ここ海なのかな?」と疑問を抱く。「ここは川の水が海と繋がっている」ということを教えてもらい更に「どうやって」「どこを」「どこを」と疑問が膨らんでいった。実際に海の中に入ってみると黒い影に気付く子どもたち。

（写真18）その黒い影の正体を一目見ようと、手や網を用いて捕まえようとする姿や、友だちと協力して挟み撃ちをする姿があった。また、砂浜では小さな穴が空いていることに気付きその周りを掘るY君（写真19）掘り進めていくと、カニを発見。（写真20）見つけた喜びを友だちや保育者と共有していった。前回までの川遊びではなかった貝殻やカニがいることに改めて不思議さを感じる姿があった為、子どもたちと園に戻り振り返りができる機会を設けていくと、「今日行ったところは海?」「でも、七北田川の水もきてるって言った」「川と海が合体しているってこと?」と流れに興味を示した為「川の水はどこからきているの?」と質問すると「山だよ」「山は高いから上から流れてくるんだよ」「雨も流れてくるのかな?」「雪が溶けたのも!」と一人ひとりが考えたことを伝える子どもたち。そこで「その川に来た水はどこに行くの?」と更に聞いてみると「田んぼ」「畑」「ろりぽっぷにもくる」「水道の水も?」「プールの水も」と子どもたち。「たくさん使いすぎたらどうなるんだろう?」「水がないと畑の野菜が育たない」「お米も食べられない」「魚も泳げない」と様々な意見。「どうしたらいいのかな」と質問すると子どもたちから「水を大切に使う」「食べ物も大切に使う」として、「ゴミが川に流れて行き止まりになっちゃうかも」と「ゴミを拾う」この三点を大切に『ゴミゼロうんどう』をスタート。（写真21）その後も、保育室内にゴミがあると自ら拾ったり、給食の取り分ける分量を考えたりすることで毎日残食がゼロな子どもたち。自然環境に目を向ける姿が見られていった。

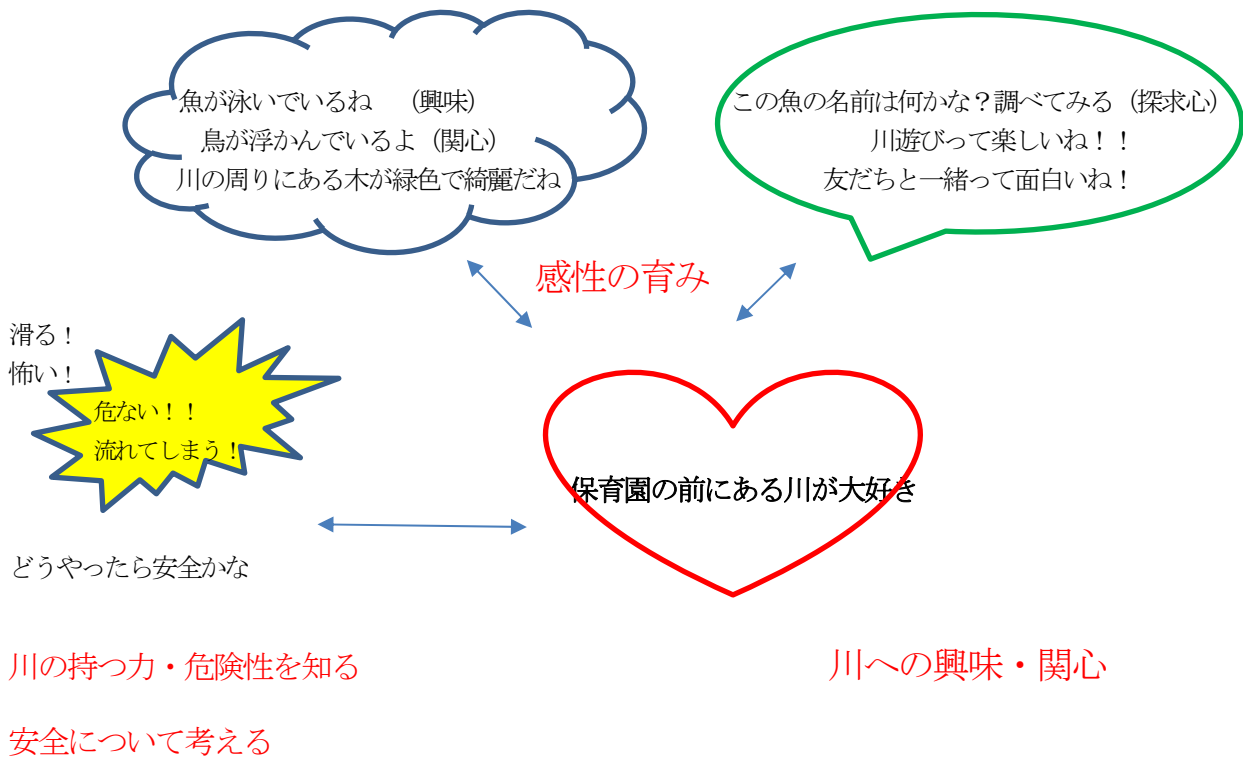
（10の姿：健康な心と体・自立心・協同性

社会生活との関わり・思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重・言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

《河川活動を通じた心の基盤づくり》



自然を体いっぱいを感じながら川で遊ぶ体験をし、心が揺さぶられ感性が豊かになる



(魚のマグネット作り)



(4歳児クラスへ伝える)

まとめ

1年間の川遊びを通して様々なことを学んだ子どもたち。10月に掲げた「ごみゼロ運動」は3月になった今でも子どもたちの心に刻まれていた。また、実際に出会った生き物についても振り返りが出来るような機会を設けていくと、魚のハンコの形を見て「川にいたよね」「どじょうだ」などと自分自身の経験を思い出しながら楽しむ姿が見られていた。「この魚かわいいな」「このマグネットにしよう」と生き物への親しみを深めていった。

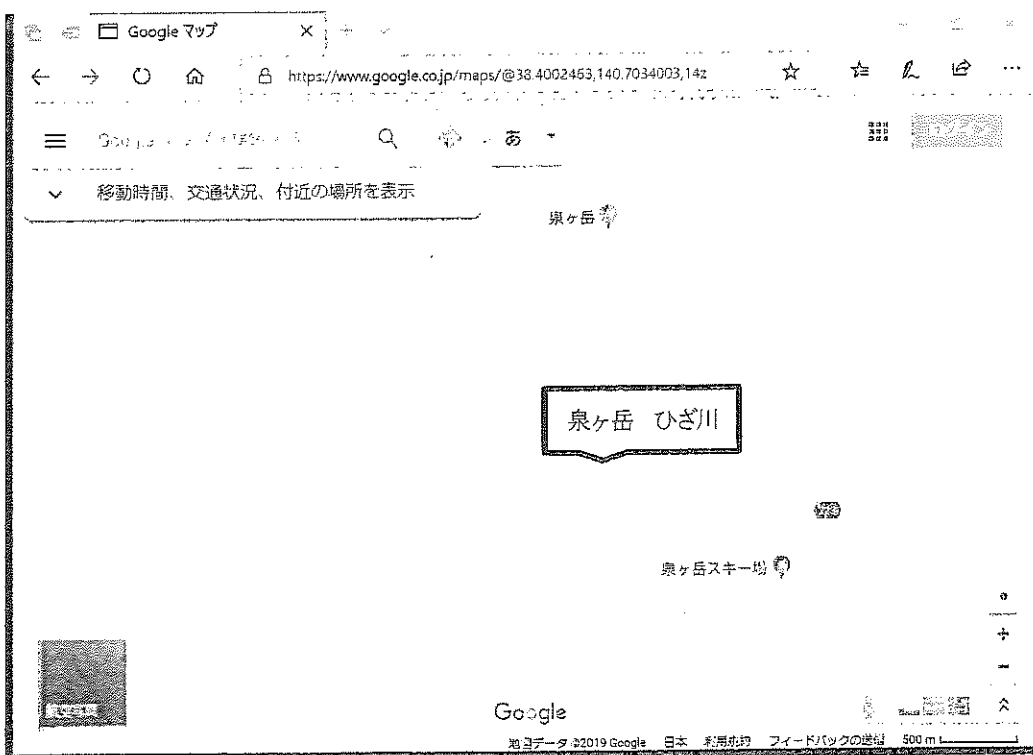
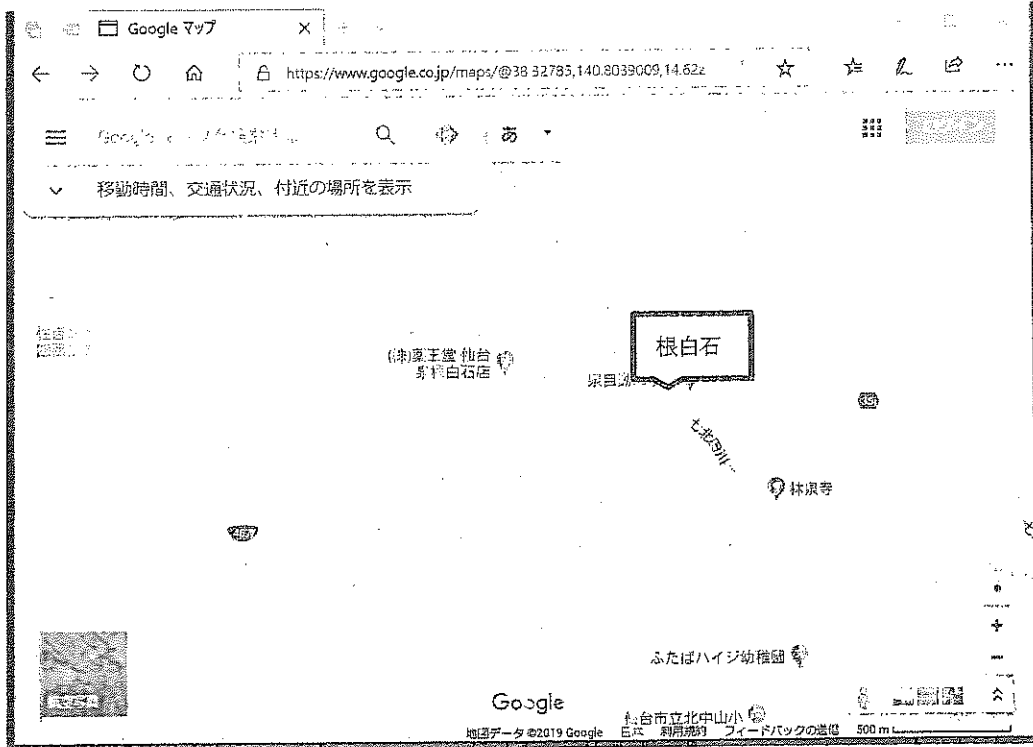
次に、来年度川遊びに行く4歳児クラスの子どもたちに実際に経験をした5歳児の子どもたちが写真で思い出を振り返りながらその時に感じた思いを伝えていった。川に実際に入る写真を見ると「ちょっと怖かったんだ」「魚がたくさんいたよ」と教えてもらう中で様々な疑問が生まれた4歳児。

「川に入るときは走っていいの?」「走ると危ないからゆっくり歩いてね」「何に気を付けるの?」「石がたくさんあるからグラグラしないか確かめてね」「靴や靴下は履くの?」「汚れてもいい靴下を履いてね。靴は川に入っても脱げないものがあるよ」と優しく声を掛ける5歳児の子どもたち。身近な友だちから教えてもらったことで、来年度の川あそびへの期待が自然と芽生える子どもたちでした。

保育園の目の前にある七北田川から川への興味関心が生まれ、心も体も開放して全身で楽しんだ川遊び。自分の感性のままに行動するその場所で川が持つ危険も知り、自分の身を自分で守りながら行動する必要性も実体験を通して学んでいた。その様々なことを実際に体験した子どもたちが次の学年へとバトンが繋がれていった。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2021-7111-011	川ってみんな違うんだね。それぞれの川が持つ特徴を学びながら川の不思議さや神秘さに心を動かす。	学校法人ろりぽっぷ学園ろりぽっぷ泉中央南園 園長 佐藤 真弓

主な実施箇所 七北田川、泉ヶ岳ヒザ川、根白石川



助成事業の主な実施箇所